

# 大阪商業大学学術情報リポジトリ

## 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史

研究代表者	宮坂 朋幸
報告年度	2020-07-13
研究課題番号	16K04506
雑誌名	科学研究費助成事業 研究成果報告書
ページ	1-9
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1297/00001338/">http://id.nii.ac.jp/1297/00001338/</a>



令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：34410

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04506

研究課題名(和文) 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史

研究課題名(英文) Comprehensive research on historical documents held by Takashima elementary school; A history of the relationship between schools and local communities from the early modern era to the present

研究代表者

宮坂 朋幸 (MIYASAKA, TOMOYUKI)

大阪商業大学・総合経営学部・准教授

研究者番号：90461954

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：長野県諏訪市立高島小学校が所蔵する膨大な歴史資料の全体像を把握し、今後の歴史研究の前提条件を整えた。具体的には、文書資料(「史料」)を「文献庫」(史料保管庫)に集め、時代別に再配架し、仮目録を作成した。さらに、明治期の史料(2107件)は、一件ずつに史料番号を付して中性紙封筒に封入したうえで再配架するとともに、目録化した。また、これらの史料的意義や保存状況の特徴を検討し、注目すべき史料の紹介や関係年表を合わせて報告書にまとめた。明治期の文書資料目録と報告書はそれぞれ100部印刷・製本した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高島小学校所蔵史料は、日本一の質・量の学校関係資料をもつ長野県松本市旧開智学校に準じるものであることを確認した。それらを整理・再配架するとともに、目録化して印刷・製本・配付することは、今後の歴史研究に資するのみならず、広く市民に、学校に関係する資料の活用の道を開くものである。本共同研究では、高島小学校所蔵史料の史料的意義を確定させるとともに、その活用の方向性を示し、特徴的な史料や年表と合わせて報告書にまとめた。報告書は、明治期の文書資料目録とともに100部印刷・製本・配付した。

研究成果の概要(英文)：By acquiring an overview of the historical materials owned by Takashima Elementary School in Suwa City, Nagano Prefecture, we have prepared the prerequisites for future historical research.

Specifically, we collected the documentary materials ("historical materials") into the "Bunken-ko" (an archives storage). Then we re-stacked the materials according to the period, and made a tentative inventory about them. In addition, we numbered each of the documentary materials from the Meiji period (a total of 2,107 items) and enclosed them into a neutral paper envelope one by one in order to reorder them. Finally we made a catalogue for the materials.

Also we examined the historical significance of these documents and the preservation status, then we selected noteworthy documents. These were compiled into a report with a chronological table of Takashima Elementary School. We printed and bound 100 copies each of the catalogue of historical documents and the report.

研究分野：日本教育史

キーワード：学校所蔵史料

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本教育史分野において、地域教育史研究の蓄積は厚い。しかし、そのほとんどが地域の教育要求と学校運営に関する論稿であり、教育実践の歴史を研究対象に据えた研究は数少なかった。佐藤秀夫は「地域の教育の歴史的構造を明らかにするという課題意識にとって特に重要なのは、教育実践の歴史をその研究対象の中心にすえることであろう」(佐藤秀夫『教育の文化史3 史実の検証』阿吡社、2005年、53頁。初出は1976年)と指摘し、具体的内容として、教授・学習、教育課程、教材と教授法、教具の状況、学校の組織・運営・施設を挙げ、これらは「個別的にだけでなく総合的なものとして研究対象に据えられる必要がある」とも論じたが、この課題が達成されているとはいえない研究状況であった。また、近世から1900年代の業績の蓄積は厚いが、1910年代以降、戦後改革期を含めた通史的な展望を持った研究が現れていなかった。

このような研究状況をもたらした要因として、史料の問題があった。一地域の教育関係史料を近世・近代移行期から戦後まで網羅的に且つ一カ所で保存している機関の所蔵史料があれば、地域教育(学校)史研究の新展開を期待することができる。それらの史料をもとに、地域と教育との関係の通史的考察ができれば、地域教育(学校)史研究に新たな地平を切り拓く可能性がある。このような視点を持った研究代表者が、地域史料の重要性を認識しつつ、長野県諏訪市立高島小学校(以下、高島小学校と略記する)所蔵史料の調査を研究分担者の小野と開始したのは2003年、つまり本共同研究開始の10年以上前のことであった。以後、本共同研究開始までに戦前期史料の「仮目録」を作成し、その史料価値を検討してきた。その結果、高島小学校所蔵の学校文書は、学校創設前後から少なくとも1980年代に至る同校の教育活動の全容をほぼ知りうる文書・図書・物具の資料が網羅的に保存されており、長野県松本市旧開智学校所蔵資料にも匹敵するものであることが推定された。

同校は、長野県諏訪市域の中心校である。長野県諏訪市域は、戦前では製糸業で、そして戦後は精密機械工業により日本の高度経済成長に寄与した地域であり、日本の近代化と教育との関係を考察するうえでも重要な地域である。高島小学校所蔵史料を悉皆調査し地域教育(学校)史のなかに位置づけることは、教育史研究にとって重要な意味を持つとの判断に至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、高島小学校が所蔵する1860年代後半から1980年代に及ぶ資料の悉皆調査、整理・分析を通して、日本近代における地域社会と学校との関係を通史的に明らかにするための前提条件を整え、その見通しを提示することである。

高島小学校は、長野県諏訪市域の中心校であったこと、1941年の国民学校令により上諏訪町城南国民学校が創設されるまで一町一小学校制度を堅持し、一地域の教育関係史料が網羅的に保存されていることなど、地域教育(学校)史研究のフィールドとして大きな意義を持つ。これを調査・分析することは、全国一の保存量・質をもつ同県松本市開智学校所蔵史料に匹敵する、教育史研究のための基礎史料を提供することになる。

しかし、高島小学校所蔵史料の量は膨大である。同校の史料は、『高島学校百年史』編纂時にある程度整理されたが、校舎改築や史料の累積増加により数回移転され、校舎外の独立の文献庫と校舎内にある書庫の2か所に、未分類の状態で作成されていた。よって、まずはこれらの再度の悉皆調査と整理・分析をすることにより、歴史研究にとって必要不可欠である「史料」の状況を整える。続いて、個々の史料を精査し、地域教育史の新たな研究方法を検討する。

### 3. 研究の方法

(1) 高島小学校所蔵資料の悉皆調査(再調査)を行い、その総体を把握する。高島小学校所蔵資料は、主に校舎外の独立の文献庫と校舎内にある書庫の2か所に収められている。その2か所を中心に悉皆調査を行い、文書資料、図書資料、物具資料の概要を把握する。

(2) 文書資料の正確な目録を作成する。予備調査の段階で文献庫内の文書資料(「史料」)の仮目録は作成したが、書庫にも多くの史料があることが判明したため、それらを精査して文書資料目録に追加・整理するとともに、文献庫に移動し再配架する。

(3) 特徴的な史料を抽出し、分析する。膨大な史料の中から、諏訪市域における地域と教育との関係を、学校運営・教育実践・教員の自己研修、学校行事にみる学校文化の形成と地域とのかわり、併設中等教育機関の成立と地域の教育要求等の解明に資すると思われる史料を抽出し、それぞれ分析・解説する。

### 4. 研究成果

(1) 高島小学校所蔵史料を整理し、目録化した。校舎内外の2か所に保管されていた資料の内、文書資料(「史料」)を文献庫に集め、明治、大正、昭和戦前、昭和戦後期に分類して再配架するとともに、予備調査の段階で作成していた仮目録に統合・整理した。そのうち、明治期の史料(2107件)は、統合版の仮目録の備考欄にまとめて記入していた史料件名を、一件ずつに分け、各史料に番号を振った。各史料は、保存・管理・活用の観点から、一件ずつ中性紙封筒(史料番号付き)に封入し再配架するとともに、松本市教育委員会『重要文化財旧開智学校所蔵資料目録』の分類に従って目録化した。目録『長野県諏訪市立高島小学校所蔵文書資料目録(明治期)』は、凡例を付して、100部印刷・製本した(総頁数44頁)。ただし、出席簿・学籍簿等の名簿類は個人情報に関わる資料であり、かつ量がかなり多いため、これらの目録からはいったん外して別に

目録化するとともに、文献庫の一番奥の棚と扉付きの棚にまとめて配架することにした。

(2) 史料学的な観点から高島小学校所蔵史料の意義を確認した。近年、その関心が高まっている「学校資料」の定義について、「学校所在史料」・「学校所有史料」等の観点に高島小学校所蔵資料の状態を照らして再検討した。その結果、当該史料は、学校が何らかの意図をもって収集し、その後、継続的に保管しているという意味で「学校所蔵史料」と呼ぶことが相応しいと結論付けた。なお、当該史料の再配架に際しては、「現秩序（現配列）尊重の原則」への配慮についても慎重に検討した。

(3) 旧開智学校所蔵史料との比較によって高島小学校所蔵史料の史料的価値を明確にし、これらの史料の活用によって、本格的な地域教育史研究を開拓できる可能性を示した。全国一の量・質を持つ旧開智学校所蔵史料と、当該史料とに共通する特徴は、幕末維新时期から現代にいたる地域教育に関する資料を体系的によく保存していることである。特に、「学校日誌」・「宿直日誌」・「職員会録」・「教案」・「教授細目」・「答案」など、日々の教育実践を明らかにできる史料群を比較検討することによって、これまでの地域教育史研究で手薄であった、公立小学校における大正新教育運動の展開（教科教育や学校行事を含めた教育実践）の具体像の解明、「教育課程の構造の変遷」や「地域における教育実践の内容や方法の変遷」の解明が可能になることを示唆した。

(4) 高島小学校所蔵資料の所蔵状況の特質を解明した。当該資料は、主として、2002年の校舎全面改築を機に作られた校舎内外の2か所（書庫と文献庫）に保管されている。校舎の改築にあたって、資料を収めるために、足場となる中2階まで備えた天井の高い部屋（木製のはしご付き）を作ったこと自体、特異なことであるが、それ以上に特徴的なのが文献庫である。文献庫は、創立百周年記念事業であった『高島学校百年史』の編纂後に建てられた史料文献保存庫（旧文献庫）を継承し、2003年に同窓会が建築主となって建設されたものであった。その意図は、「高島学校の歴史を永久に残すため」であり、未来のために歴史を残すという明確な意識があったことが、新旧それぞれの建築にかかわった人々の回想録等から明らかとなった。文献庫は地域の人々の高島小学校に対する思いを象徴するものであった。

(5) 明治期の注目すべき史料を抽出した。大和学校新築関係史料、「諏訪郡中等教育発達史 原本」・「植物園日誌」がそれである。は、1879（明治12）年に落成した高島学校新校舎と同時並行で建築が進められていた大和学校（1889年に高島尋常小学校へ統合）の新築関係史料である。資金や資材、用地などの負担・調整方法をめぐり地域社会での合意形成が必要となる新築事業の関係史料は、今後、地域社会が学校教育の環境整備をいかに担い、また担わなかったのかといった姿を浮き彫りにすることにつながる。は『長野県諏訪二葉高等学校七十年誌』で「幻の文献」として紹介されたもので、同誌で「岩垂レポート」と略称される原稿である。執筆者と推定される岩垂今朝吉は諏訪地域の初等中等教育機関に教諭や校長として長く勤務し、その発展に寄与した中心的な人物である。その岩垂が諏訪地域の中等教育の展開として、何を見てそれをどうとらえていたかがわかる史料である。は明治40年代に、児童が記した植物園（学校園）の観察日誌である。その総数は76点であり、数・内容（記述項目や記述量）ともに旧開智学校の同様の史料（「学級園日誌」など）を上回るものである。これらを詳細に分析することによって、子どもの視点を踏まえた学校園の実践をより鮮明に描くことが可能となる。

以上、(2)から(5)までの成果は、「高島学校関係年表（1912（明治45）年まで）」を付して報告書『学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史』としてまとめ、100部印刷・製本した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 宮坂朋幸	4. 巻 1
2. 論文標題 学校所蔵史料の総合的研究 意義と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野雅章	4. 巻 1
2. 論文標題 日本近代地域教育史研究と学校所蔵史料 松本市旧開智学校と諏訪市高島小学校の所蔵史料を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 10-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮坂朋幸	4. 巻 1
2. 論文標題 長野県諏訪市立高島小学校所蔵資料の現状 本共同研究に至る経緯と成果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮坂朋幸	4. 巻 1
2. 論文標題 高島小学校所蔵資料の保管状態の特徴 文献庫設置の意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩原佳典	4. 巻 1
2. 論文標題 【史料紹介】「新築関係史料」(1876~1879年)を読み直す	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富士原雅弘	4. 巻 1
2. 論文標題 【史料紹介】「諏訪郡中等教育発達史 原本」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 60-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 1
2. 論文標題 【史料紹介】「植物園日誌」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩原佳典	4. 巻 10
2. 論文標題 藩地域における維新期学制改革の再検討：信州高島藩にみる教育と教化の諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育史学会紀要	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮坂朋幸	4. 巻 1
2. 論文標題 日本教育史研究における学校資料の活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シンポジウム 学校資料の活用を考える 学校資料の価値と可能性 ・ 講演録	6. 最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 宮坂朋幸
2. 発表標題 日本教育史研究における学校資料の活用
3. 学会等名 番組小学校創設150周年記念シンポジウム「学校資料の活用を考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮坂朋幸
2. 発表標題 宮坂広作の人となりと諏訪の風土
3. 学会等名 学び続ける・学びを広げる 諏訪人 ・ 宮坂広作の生涯と学問
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野雅章
2. 発表標題 佐藤秀夫と日本教育史研究 史料公開・研究方法・研究指導 (コロキウム: 日本教育史研究の系譜 佐藤秀夫の研究論考・教育史史料研究・教育史史料公開)
3. 学会等名 教育史学会第60回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮坂朋幸
2. 発表標題 学校所蔵史料研究の意義と課題
3. 学会等名 第333回商経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野雅章
2. 発表標題 旧開智学校所蔵史料の概要とその特色 国宝指定内定の一つの要因としての史料群
3. 学会等名 日本教育史学会第634回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野雅章
2. 発表標題 地域教育史研究と学校所蔵資料 松本市旧開智学校と諏訪市高島小学校の所蔵資料
3. 学会等名 日本大学教育学会2019年度秋季学術研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野雅章
2. 発表標題 テーマ解説 : 教育史からみる擬洋風校舎 旧開智学校所蔵資料が語る近代教育の「模範」
3. 学会等名 旧開智学校校舎国宝指定記念シンポジウム「旧開智学校校舎の価値とこれからの活用にむけて」
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 塩原佳典
2. 発表標題 幕末維新期藩校改革の再検討：信濃国高島藩における教化の諸相
3. 学会等名 近世史サマーセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 大正期の農村部における学校園
3. 学会等名 教育史学会第62回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 米田俊彦、清水康幸、坂本紀子、柏木敦、宮坂朋幸、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 六花出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 教育史研究の最前線 創立60周年	

1. 著者名 鈴木茂、清水光明、小野雅章、町田祐一、君島和彦、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東大出版会	5. 総ページ数 328
3. 書名 歴史を社会に活かす	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 雅章 (Ono Masaaki) (70224277)	日本大学・文理学部・教授  (32665)	
研究分担者	富士原 雅弘 (Fujiwara Masahiro) (30339238)	日本大学・国際関係学部・准教授  (32665)	
研究分担者	塩原 佳典 (Shiohara Yoshinori) (40769650)	畿央大学・教育学部・准教授  (34605)	
研究協力者	松嶋 哲哉 (Matsushima Tetsuya)	日本大学・研究員	
研究協力者	加藤 雄大 (Kato Yudai)	日本大学・大学院生	
研究協力者	田中 千賀子 (Tanaka Chikako)	武蔵野美術大学・非常勤講師	